

## 神戸市中央卸売市場の取扱高の推移について

## 1. 卸売市場を取り巻く環境

近年の消費者ニーズの多様化や生鮮食料品における流通構造の変化、また昨年からの物価高騰による影響など、卸売市場を取り巻く環境は、以前厳しい状況が続いているが、今年3月のマスクの緩和などにより、市場取引における新型コロナの影響は少しずつ落ち着きを取り戻している。2024年のトラック問題による物流への影響など懸念材料はあるが、今後も産地や実需者などから選ばれる市場として、生鮮食品の安定供給を担うインフラとしての役割を果たせるように市場内関係者が連携して、課題に取り組んでいく必要がある。

## 2. 令和4年（暦年）神戸市場（本場・東部市場）における青果及び水産物の取扱い状況

令和4年総取扱高は、取扱数量で155,105<sup>ト</sup>（前年比93.9%）、取扱金額で79,689百万円（同比109.0%）。

ア 市場別実績では、本場、取扱数量118,690<sup>ト</sup>（前年比93.9%）、取扱金額64,416百万円（同比111.0%）、東部市場、取扱数量36,416<sup>ト</sup>（同比93.8%）、取扱金額15,273百万円（同比101.5%）であった。

イ 卸売部門別では、青果部、取扱数量で120,741<sup>ト</sup>（前年比92.9%）、取扱金額では35,420百万円（同比100.9%）。水産物部、取扱数量で34,364<sup>ト</sup>（同比97.5%）、取扱金額では44,270百万円（同比116.5%）であった。

【取扱数量・金額】

		令和4年		令和3年		令和2年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
本場	青果	90,731 <sup>ト</sup>	26,692 <sup>百万円</sup>	98,775 <sup>ト</sup>	26,560 <sup>百万円</sup>	105,552 <sup>ト</sup>	28,585 <sup>百万円</sup>
	対前年比	91.9%	100.5%	93.6%	92.9%	93.4%	100.6%
	水産	27,959 <sup>ト</sup>	37,724 <sup>百万円</sup>	27,587 <sup>ト</sup>	31,487 <sup>百万円</sup>	27,149 <sup>ト</sup>	30,347 <sup>百万円</sup>
	対前年比	101.3%	119.8%	101.6%	103.8%	89.0%	86.3%
	計	118,690 <sup>ト</sup>	64,416 <sup>百万円</sup>	126,362 <sup>ト</sup>	58,046 <sup>百万円</sup>	132,701 <sup>ト</sup>	58,932 <sup>百万円</sup>
対前年比	93.9%	111.0%	95.2%	98.5%	92.4%	92.7%	
東部市場	青果	30,010 <sup>ト</sup>	8,728 <sup>百万円</sup>	31,154 <sup>ト</sup>	8,555 <sup>百万円</sup>	33,250 <sup>ト</sup>	9,751 <sup>百万円</sup>
	対前年比	96.3%	102.0%	93.7%	87.7%	99.2%	100.4%
	水産	6,405 <sup>ト</sup>	6,546 <sup>百万円</sup>	7,671 <sup>ト</sup>	6,498 <sup>百万円</sup>	7,864 <sup>ト</sup>	6,600 <sup>百万円</sup>
	対前年比	83.5%	100.7%	97.5%	98.5%	97.0%	87.6%
	計	36,416 <sup>ト</sup>	15,273 <sup>百万円</sup>	38,825 <sup>ト</sup>	15,053 <sup>百万円</sup>	41,114 <sup>ト</sup>	16,351 <sup>百万円</sup>
対前年比	93.8%	101.5%	94.4%	92.1%	98.8%	94.8%	
部門別計	青果	120,741 <sup>ト</sup>	35,420 <sup>百万円</sup>	129,929 <sup>ト</sup>	35,115 <sup>百万円</sup>	138,802 <sup>ト</sup>	38,336 <sup>百万円</sup>
	対前年比	92.9%	100.9%	93.6%	91.6%	94.7%	100.6%
	水産	34,364 <sup>ト</sup>	44,270 <sup>百万円</sup>	35,258 <sup>ト</sup>	37,985 <sup>百万円</sup>	35,013 <sup>ト</sup>	36,947 <sup>百万円</sup>
	対前年比	97.5%	116.5%	100.7%	102.8%	90.7%	86.6%
	計	155,105 <sup>ト</sup>	79,689 <sup>百万円</sup>	165,187 <sup>ト</sup>	73,100 <sup>百万円</sup>	173,815 <sup>ト</sup>	75,283 <sup>百万円</sup>
対前年比	93.9%	109.0%	95.0%	97.1%	93.9%	93.2%	

※統計については項目別四捨五入のため、合計と明細で端数が一致しないことがある。

### 3. 令和4年（暦年）東部市場における花きの取扱い状況

花き部では、令和4年の取扱数量で37,130千本（前年比90.1%）、取扱金額では3,073百万円（同比102.8%）であった。

		令和4年		令和3年		令和2年	
		数量	金額	数量	金額	数量	数量
東部市場	花き	37,130千本 <sup>ト</sup>	3,073百万円	41,231千本 <sup>ト</sup>	2,988百万円	40,158千本 <sup>ト</sup>	2,728百万円
	対前年比	90.1%	102.8%	102.7%	109.5%	90.1%	91.1%

### 4. 令和4年（暦年）西部市場における食肉の取扱い状況

令和4年総取扱高は、頭数が27,409頭（前年比103.2%）、重量は6,832ト（前年比106.6%）、金額では16,092百万円（前年比106.2%）といずれも増加している。

#### ア 牛枝肉

頭数は11,699頭（前年比106.1%）、重量は5,248ト（前年比106.8%）、金額では14,682百万円（前年比105.4%）といずれも増加している。

#### イ 豚枝肉

頭数は15,710頭（前年比101.1%）、重量は1,337ト（前年比101.8%）、金額では742百万円（前年比106.9%）といずれも増加している。

#### ウ 部分肉等

重量は248ト（前年比136.3%）、金額では667百万円（前年比125.4%）といずれも増加している。

#### 【取扱数量・金額】

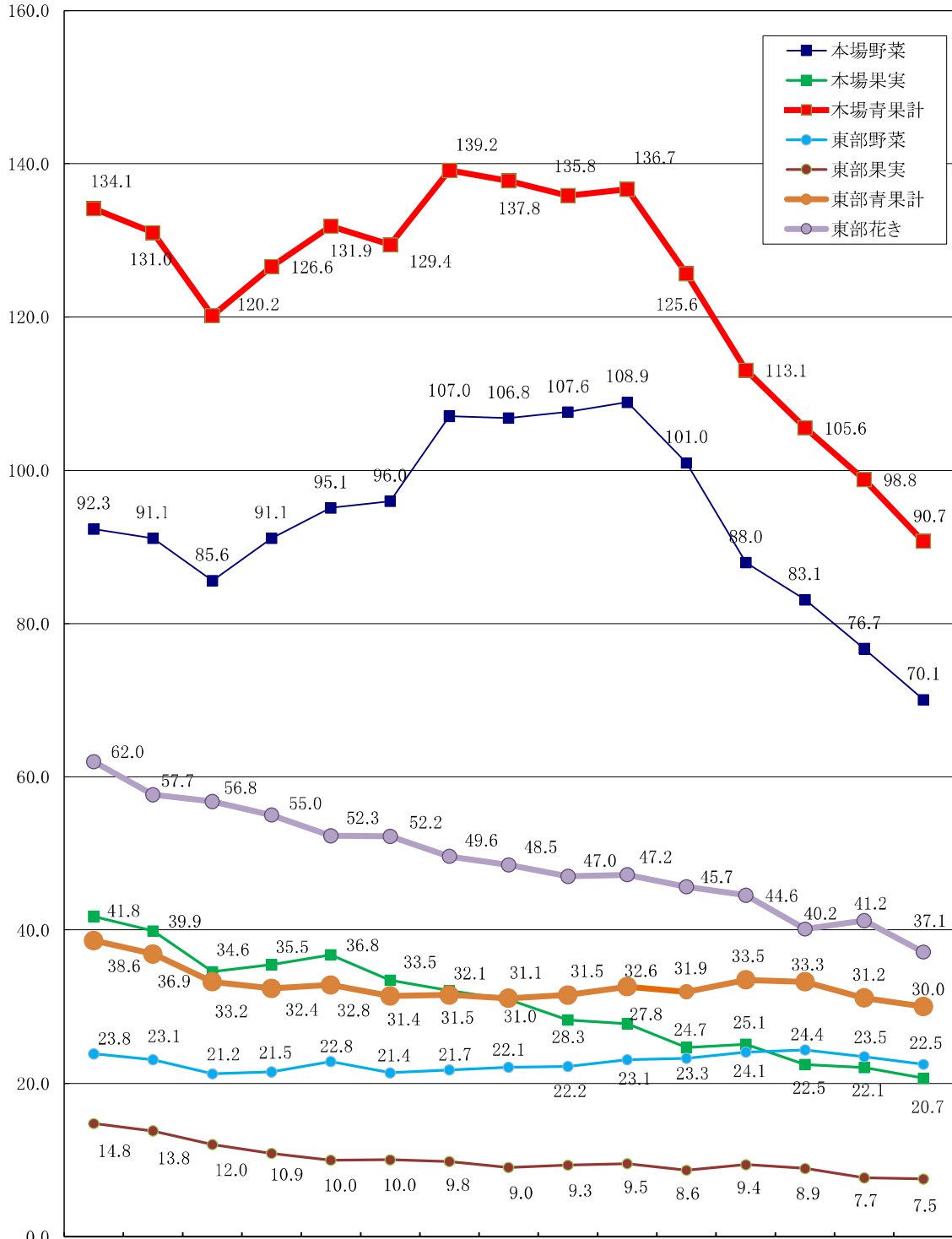
		令和4年		令和3年		令和2年	
		数量	金額	数量	金額	数量	数量
西部市場	牛	5,248ト <sup>ト</sup> (11,699頭)	14,682百万円	4,915ト <sup>ト</sup> (11,023頭)	13,928百万円	4,763ト <sup>ト</sup> (10,771頭)	12,478百万円
	対前年比	106.8% (106.1%)	105.4%	103.2% (102.3%)	111.6%	104.4% (102.8%)	93.3%
	豚	1,337ト <sup>ト</sup> (15,710頭)	742百万円	1,314ト <sup>ト</sup> (15,540頭)	694百万円	1,201ト <sup>ト</sup> (14,388頭)	662百万円
	対前年比	101.8% (101.1%)	106.9%	109.4% (108.0%)	104.8%	107.1% (106.6%)	109.4%
	部分肉等	248ト <sup>ト</sup>	667百万円	182ト <sup>ト</sup>	532百万円	123ト <sup>ト</sup>	397百万円
	対前年比	136.3%	125.4%	148.0%	134.0%	205.5%	102.6%
	計	6,832ト <sup>ト</sup> (27,409頭)	16,092百万円	6,412ト <sup>ト</sup> (26,563頭)	15,155百万円	6,087ト <sup>ト</sup> (25,159頭)	13,538百万円
対前年比	106.6% (103.2%)	106.2%	105.3% (105.6%)	111.9%	106.0% (104.9%)	94.2%	

※統計については項目別四捨五入のため、合計と明細で端数が一致しないことがある。

# 青果・花き 取扱数量（暦年）

（本場+東部市場）

取扱数量  
単位:千トン  
花き:百万本

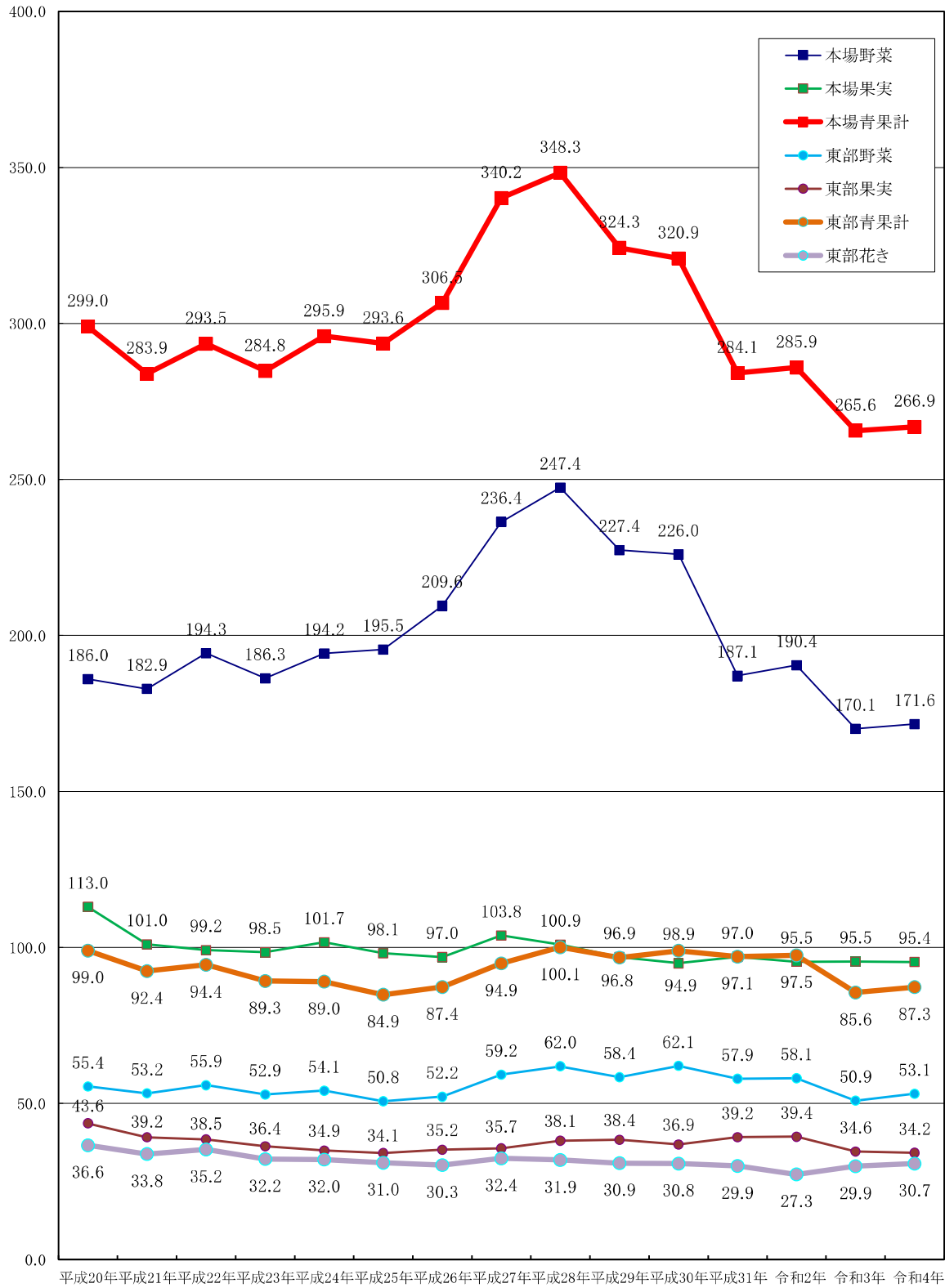


平成20年 平成21年 平成22年 平成23年 平成24年 平成25年 平成26年 平成27年 平成28年 平成29年 平成30年 平成31年 令和2年 令和3年 令和4年

# 青果・花き 取扱金額（暦年）

（本場+東部市場）

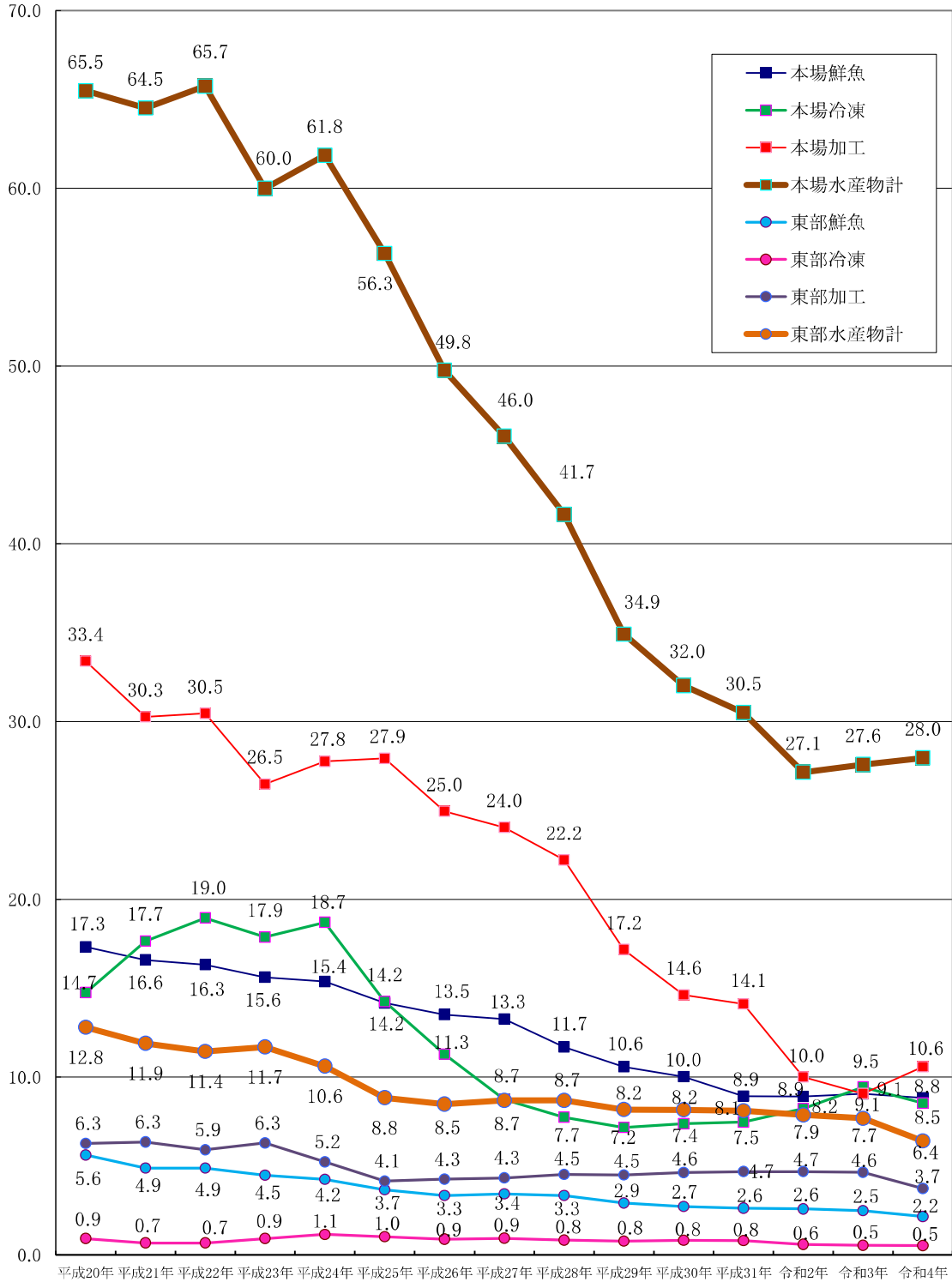
取扱金額  
（単位：億円）



# 水産物 取扱数量 (暦年)

取扱数量  
(単位:千トン)

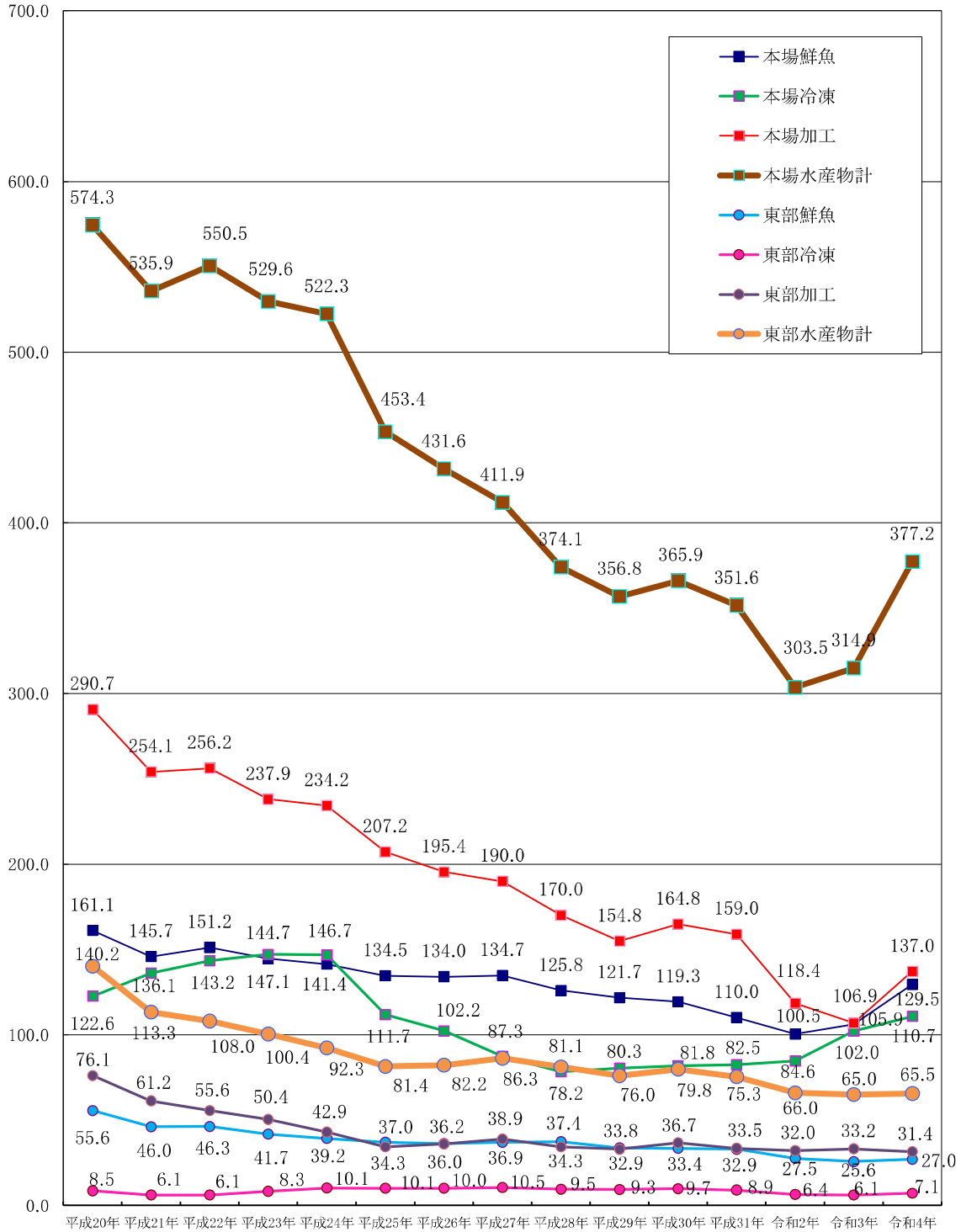
(本場+東部市場)

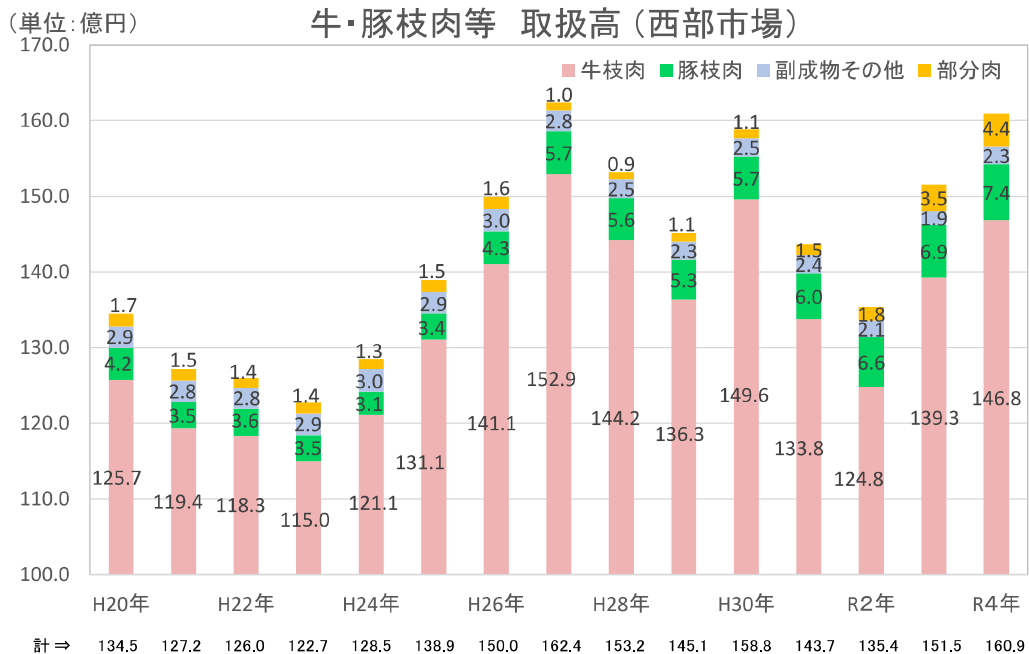
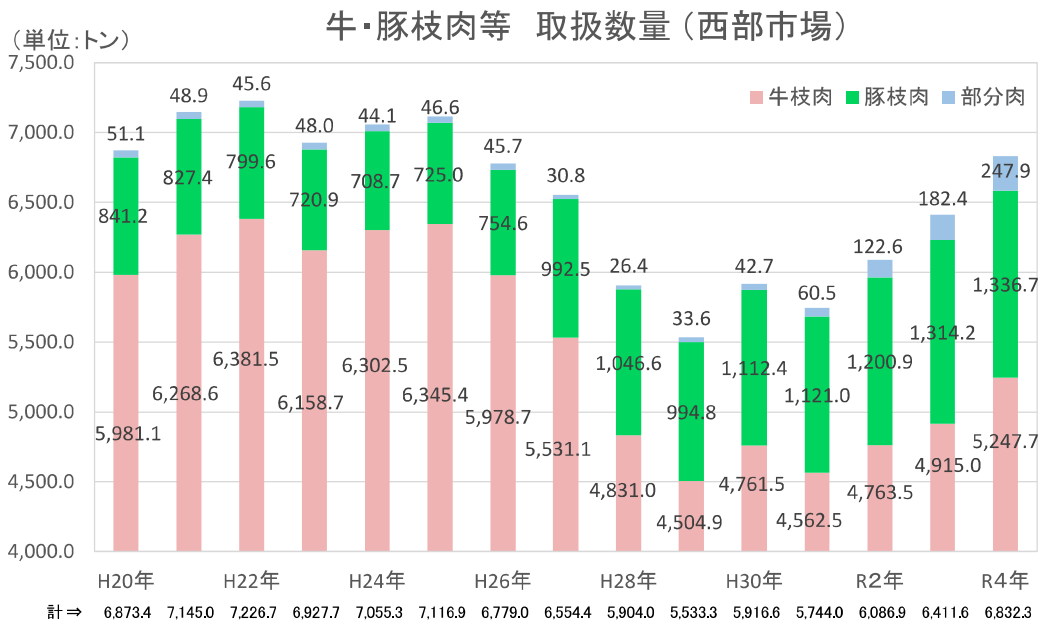
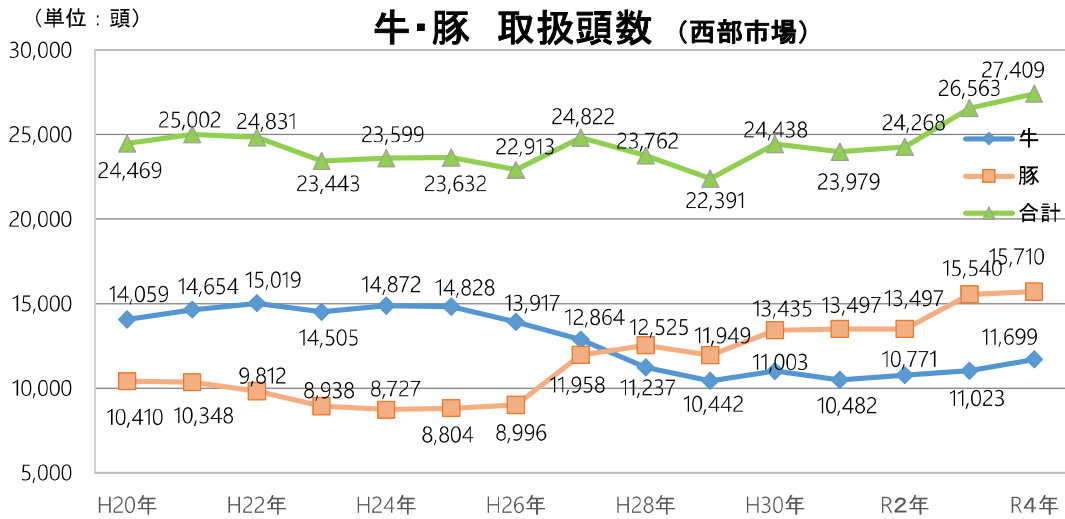


# 水産物 取扱金額（暦年）

（本場+東部市場）

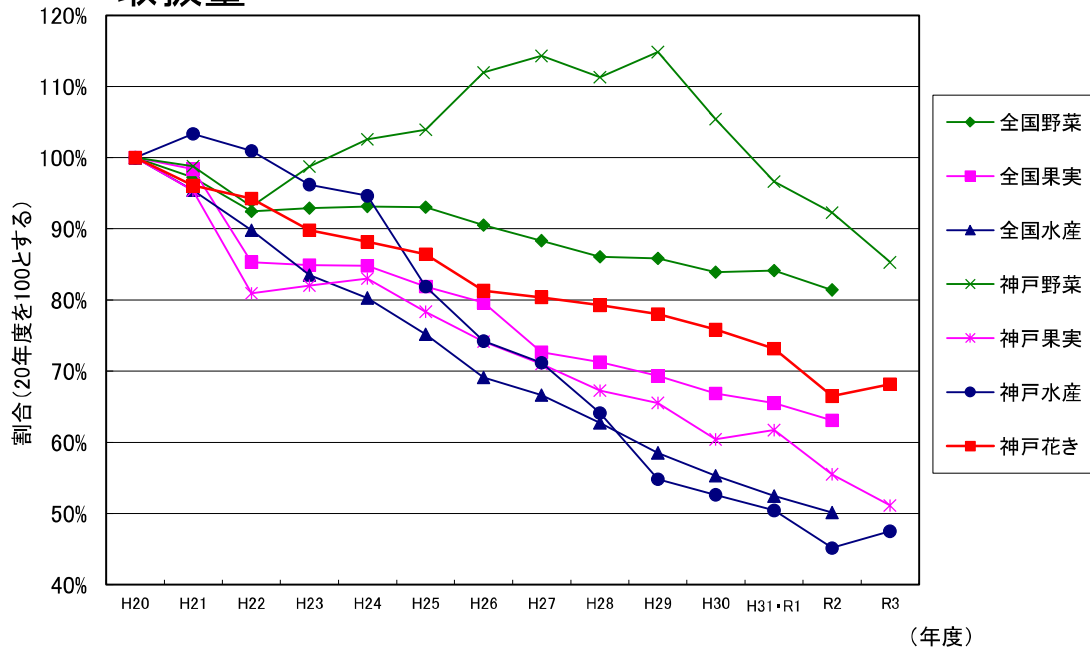
取扱金額  
（単位：億円）





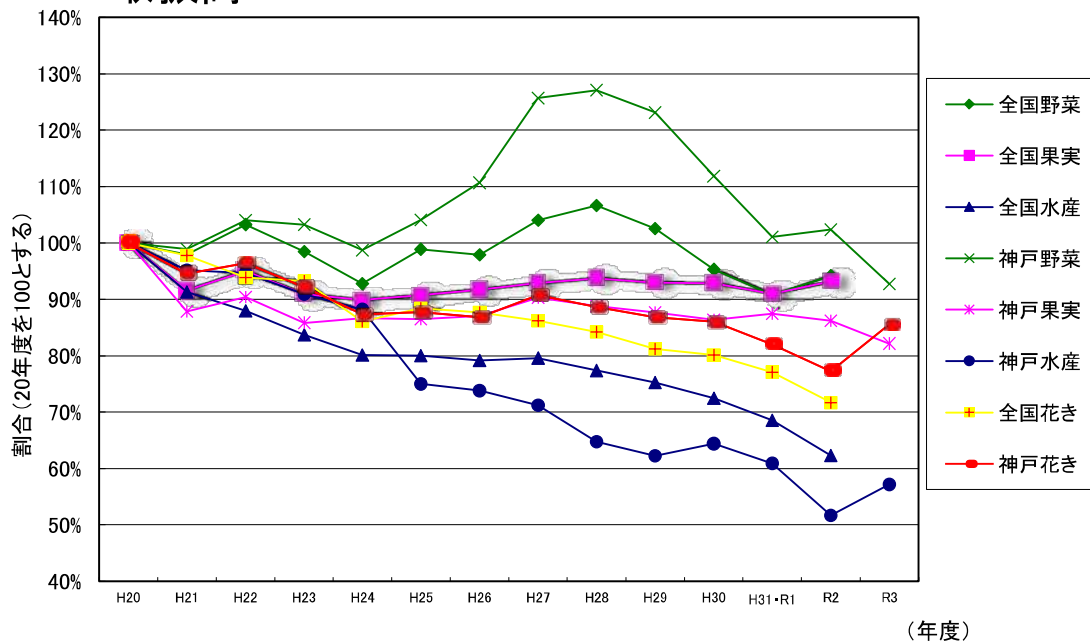
# 全国－神戸市(中央卸売市場)の比較 (青果・水産・花き)

## 取扱量



- ※ 「全国花き」の取扱量は、データが無いため未掲載である。
- ※ 全国の数値は、全国の中央卸売市場の取り扱い合計であり、令和3年度の数値は、データが発表されていないため未掲載である。
- ※ 神戸の数値は、神戸本場・東部市場の取り扱い合計である。

## 取扱高



- ※ 全国の数値は、全国の中央卸売市場の取り扱い合計であり、令和3年度の数値は、データが発表されていないため未掲載である。
- ※ 神戸の数値は、神戸本場・東部市場の取り扱い合計である。



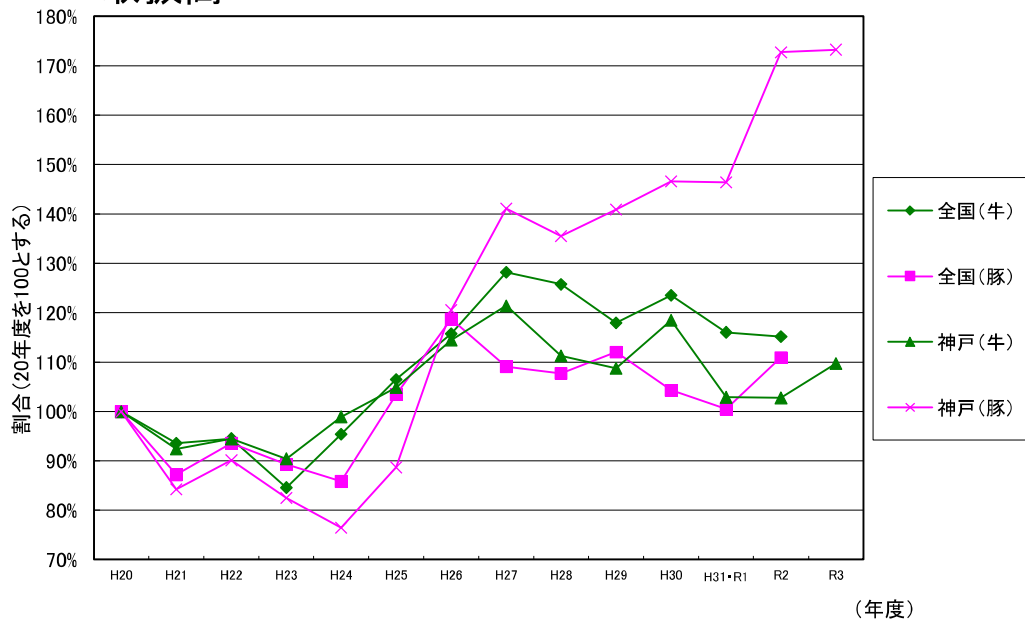
## 全国－神戸市(中央卸売市場)の比較 (食肉)

### 取扱量



※ 全国の数値は、全国の中央卸売市場の取り扱い合計である。  
令和3年度の数値は、データが発表されていないため未掲載である。

### 取扱高



※ 全国の数値は、全国の中央卸売市場の取り扱い合計である。  
令和3年度の数値は、データが発表されていないため未掲載である。

## 神戸市中央卸売市場本場

# 経営展望計画の達成状況とその後の取り組み

令和5年（2023年）2月24日

神戸市経済観光局 中央卸売市場運営本部本場



# 本場 経営展望計画概要

---

## ○経営展望計画策定の背景

- ・農林水産省の「第9次整備基本方針」（H22年(2010年)10月策定）において、各卸売市場に対して 市場全体の経営戦略的な視点から市場運営のあり方を定めた「経営展望計画」の策定が求められた。
- ・本場では平成24年度（2012年度）に経営展望計画を作成、計画年度として平成25年度（2013年）から29年度（2017年度）の5年間でこれを実施することとした。



# 本場 経営展望計画概要

---

○目指すべき将来像（本場の位置づけや役割から、目指すべき将来像を設定）

## 『スピードと実行力のある市場』

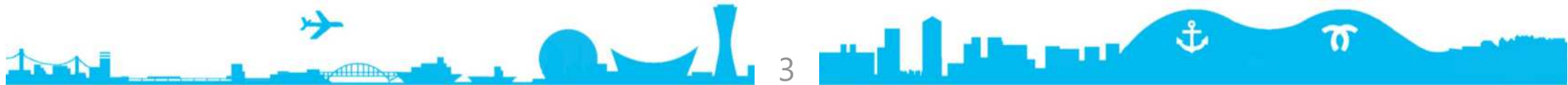
○基本戦略

- （1）流通機能の強化
- （2）品質・衛生管理の強化
- （3）管理・運営体制の再構築
- （4）市民に開かれた市場づくり

○実施期間

当初：平成25年度（2013年度）～平成29年度（2017年度）「5年間」

その後、法令改正を見据え、平成30年度、31年度は継続実施



# 経営展望計画の振り返り

- 各行動計画（アクションプラン）については、当初の実施期間である平成29年度で達成済み。
- その後、各項目を継続して実施するとともに、新たな取り組みを実施し、より発展させていくよう進めている。
- 新たな取り組み
  - ◆ 中央卸売市場展示コーナー設置
  - ◆ 情報発信ツールにInstagramを活用
  - ◆ 産地・大学・市場のコラボイベント実施
  - ◆ 無許可駐車対策システムの導入



# 本場を取り巻く課題

---

## ○ 社会全体の課題

- ・自動車運転業務における時間外労働時間の上限規制（2024年問題）

⇒ **車両動線のルート確保とルールの適正化による場内物流の効率化**

## ○ 卸売市場としての課題

- ・生活様式の変化に伴う消費者ニーズの変化 → 加工、小分け等の簡便化需要の増加

⇒ **ニーズに対応する加工施設の新設**

- ・鮮度、安全性への関心の高まり → コールドチェーン化、老朽施設の改修の必要性

⇒ **卸売場・仲卸売場等既存施設の老朽改修と温度管理等の機能強化**

## ○ 本場独自の課題

- ・東西分断の解消 → 作業効率、衛生面の向上

⇒ **冷蔵庫・買荷保管所の移転整備による作業効率と鮮度・品質保持**



神戸市中央卸売市場業務運営協議会  
令和4年度 東部市場専門部会

[議題1]

経営展望計画(2017-2021)の進捗状況について





## 経営展望計画策定の経緯

- ・国の「第10次卸売市場整備基本方針」(平成28年1月14日策定)において、「経営展望の策定等により、卸売市場としての経営戦略を確立すること」が明記。
- ・上記の国の計画を踏まえ、卸売市場としての機能強化及び活性化を図るため、平成29年3月に「東部市場経営展望計画(2017-2021)」を策定。



# 計画の骨子

## (ビジョン)

コンパクトで時代に適合した機動性のある卸売市場の実現

## (5つの基本戦略)

- ①実需者・産地から選ばれる販売・集荷の展開
- ②特長を際立たせる市場運営と場内事業者の経営体質の強化
- ③安心・安全な市場流通環境・機能の確立
- ④開かれた市場づくりによる豊かな市民生活と新たな賑わい創出への貢献
- ⑤施設の効果的な管理運営と最適な施設整備の推進

## 2. 今後の検討課題

産地や実需者から選ばれ続ける卸売市場に向けて



## 1. 東部市場の特長を活かした戦略的取組の推進

- (1) 物流面でのアクセスの優位性のPR
- (2) コールドチェーンに配慮した加工場・冷蔵庫棟の活用
- (3) 場内荷捌き及び保管・加工機能の向上の検討
- (4) 産地との関係性強化による特色ある集荷
- (5) 部門間及び卸売業者・仲卸業者間の連携促進による  
総合力の発揮

## 2. 市場活性化へ向けての取り組み

- (1) 開かれた市場づくりの更なる推進による賑わいの創出
- (2) SNSなど様々な媒体を活用した情報発信
- (3) 新たな仲卸業者、売買参加者の参入促進



### 3. 施設の計画的活用の検討

- (1) 施設の計画的な改修等による市場機能の維持・向上
- (2) 特設棟、軟弱そ菜棟などの再活用の検討

### 4. 新たな課題への対応

- (1) ドライバー不足(2024年問題)への対応
- (2) DX化への対応
- (3) 神戸空港への国際線就航を踏まえた施策の検討



産地・実需者から選ばれ続ける卸売市場へ



神戸市中央卸売市場西部市場

# 経営展望計画後の達成状況と その後の取り組み

令和5年（2023年）2月10日

神戸市経済観光局

中央卸売市場運営本部

西部市場

# 経営展望計画概要

目指すべき将来像

「市民に信頼される食肉流通を目指して」

基本戦略

(1)

集荷力の向上

(2)

販売力の向上

(3)

衛生管理の強化

(4)

市場の開放

制 定 平成27年（2015年）2月

実施期間 平成27年度（2015年）～令和元年度（2019年）「5年間」

# 経営展望計画後の取組み

引続き販売力の強化、並びに西部市場の活性化に取り組む

## 基本戦略 (2) 販売力の向上

### ④買参人登録者及びセリ参加者の拡大

- ・セリ場、下見室他床面補修

## 基本戦略 (4) 市場の開放

### ⑧消費者・生産者・買参人への市場のP R

- ・ホームページを更新する（令和4年度）
- ・ロゴマーク、バナーの検討





